

2023年度 学校関係者評価

学校法人松本学園・幼保連携型認定こども園さふらん

創立52年目、幼保連携型認定こども園として9年目の歩み

I. 理念・方針・目標

理念

“さばくは喜びて花咲き、さふらんのように、さかんに花咲き、かつ喜び、かつ歌う”(旧聖書)の言葉のように、幼稚園も社会も、愛と平和と希望の、美しい花園になるように、と願う

方針

キリスト教精神に基づき、より良い環境と自由な雰囲気の中で、子どもたちの個性と可能性を伸ばし自主性(意欲)と協調性(思いやり)、創造性が育つよう支えていく

互いの違いを認め合い、(ハンディのあるなしに関わらず)共に育ちあう事を大切にする

目標

「いつも元気で、みんな仲良く」育ってほしいという願いをもって日々の保育に取り組む
(自立・自尊・自信→いつも元気で 協調・協力・調和→みんな仲良く)

学年の重点

1歳児	園で安心して過ごし、人に対する信頼関係を築く	} 見ていて下さる神様
2歳児	自分で様々な事をやろうとする(依存から自立へ)	
満3歳児	幼稚園で安心して過ごす	
年少組	1人1人が自分の遊びを充分楽しむ	守って下さる神様
年中組	友だちと関わりながら遊びを楽しむ	愛して下さる神様
年長組	友だち同士認め合い自分らしさを発揮する	共にいて下さる神様

II. 本年度の重点目標

- ①子どもの成長にとって大事な活動や環境作りを教職員間で考えると共に、保護者が子どもの様子を見る機会を増やすことで園と保護者の思いを共有し、子ども達の成長を支えていく。
- ②コロナによる制限の緩和が予想されるので、今まで制限してきた活動や保護者参加の幅を広げ、子ども達の経験を増やしていく。
- ③子育て支援を充実させる

Ⅲ. 評価項目の達成と取組状況

評価の基準 A：十分達成できた B：おおむね達成できた

C：あまり達成できなかった D：達成できなかった

評価項目	評価内容	取組み状況	自己評価
保育計画	発達段階に則した適切な幼児理解と環境整備が出来ているか	<ul style="list-style-type: none"> 年間指導案などの保育カリキュラムは毎年、年度初めに見直し、保育環境や子どもの成長段階に応じて、作成しなおしている。 月案や週案は、各学年の担任やフリー教諭が話し合い、計画・作成している。月毎に反省をし、翌月の計画につなげるだけでなく、学期の終わりには全体で振り返りを行い、教職員全体で子どもの成長につなげている。 ひだまり保育についても、にじの時間を踏まえた上で各担当が月毎のカリキュラムを計画・作成している。 子ども達が興味あることや好きなことを楽しめるように、子どもの様子に合わせて、コーナーや遊びの環境を設定したことで、子ども達が生き生きと楽しめる活動が展開された。 	A
	子どもが主体的に参加し、成長につながる行事の取組みが出来ているか	<ul style="list-style-type: none"> 日々の活動、行事ともに子ども達の興味あるものやイメージを膨らませやすい内容、また話し合いで子ども達の意見を取り入れることで、ひとりひとりが意欲的に取り組むことができている。 コロナ禍でできなかった年長組と年中組の凧作りを再開することができ、良い交流となった。 運動会やクリスマス、凧作り、お店屋さんごっこを通して、年下の子ども達が年長組に憧れの気持ちを持ち、次は自分達もやってみたいという意欲につながっている。 餅つきでは、4年ぶりに子ども達が杵について、つきたてのお餅を食べることができて良い経験につながった。 	A
	園と小学校の円滑な連携の取組みが出来ているか	<ul style="list-style-type: none"> 毎月、本町田小学校や本町田東小学校に園だよりを送付している。本町田東小学校からは学校便りが届き、やりとりができています。 2月に年長組が、本町田小学校を訪問し、校舎内を見学させてもらった。小学校を知る良い機会となつてはいるが、できれば1年生と交流したい。 市主催の幼小連携連絡会に出席し、近隣の小学校や保育施設と幼小連携について情報交換している。 アプローチカリキュラムを作成し、年長児が進学する各小学校に送付している。小学校からもスタートカリキュラムが送られてきている。 	B
情報提供	地域、関係機関への情報発信が出来ているか	<ul style="list-style-type: none"> 子育て支援に関する情報をHPや町田市の子育てカレンダーに載せたり、地域の施設に掲示してもらおう。 HPに在園児向けのブログの他に、外部の方向けに園紹介を目的としたブログを作り、園の様子を発信している。 	A
	ドキュメンテーションの取組みは充実しているか	<ul style="list-style-type: none"> ホームページ内のブログをほぼ毎日更新し、動画も交えながら、保護者に園生活の様子を伝えている。 各学年、定期的に写真入りのお便りを発行し、様子を伝えている。 	B
	保護者との連携は適切であったか	<ul style="list-style-type: none"> 父母委員会の定例会に、担当職員が出席し、園の様子を話したり、父母会運営に関して意見交換を行っている。 誕生会でのコンサートや劇の公演、絵本の読み聞かせなどのサークル活動を通して、保護者が子ども達と関わる機会をもっている。 4年ぶりに、おやじの会の活動を再開することができ、運動会後の片付け、プレイデーの製作コーナーや餅つきのお手伝いをしてもらうことができた。 参観や行事への参加の他に、芋掘り前の蔓きりの手伝い、感謝礼拝やアドベント礼拝、鶴川教会での礼拝に有志の方が参加できる機会を設けることで園生活を知ってもらう機会となった。 	A

保健 衛生 安全 管理	危機管理体制の整備は充分か	<ul style="list-style-type: none"> 定期的に、園内の設備や遊具の安全点検を行い、必要に応じて修理を行っている。7月に業者による園庭遊具の修理工事を行った。 園バス置き去り防止のため、6月に3台の園バスに安全装置をつけた。また、熱中症予防のため、窓に遮光フィルムも貼った。 地震や火事を想定した避難訓練を毎月、不審者対応訓練を年2回、行っている。1月の能登地方の地震をうけて、再度初期対応について教職員間で確認した。 	A
	感染症についての対応は適切であったか	<ul style="list-style-type: none"> コロナが感染症第5類に移行したことで、これまでコロナで制限してきたことを、子ども達の様子や成長を踏まえ、徐々にコロナ前の生活や行事に戻し、経験を増やすことができた。 保護者の行事参加については、運動会は保護者参加の制限を無くし、プレイデーはコロナ前の1日開催に戻したので多くの方に来園してもらう機会となった。 夏休み明けにはプール熱、11月と1月に年中組を中心にインフルエンザが流行した際、保健だよりをこまめにメール配信し状況を伝えてはいたが、感染症対策や注意喚起について今一度考えさせられた。 	B
	保健衛生に係わる情報を適切に保護者・職員に提供できていたか	<ul style="list-style-type: none"> 登園許可のいる疾病やコロナの感染状況は、事務室のホワイトボードに記入し、全職員で共有している。 感染症が流行った時や検診の後などに、保健だよりを発行し、保護者に情報提供している。 	A
研修	教職員間の共通理解が出来ていたか	<ul style="list-style-type: none"> 会議で決まった事項などは、議事録として、全教職員にメール配信して伝達しているだけでなく、今年度からはナースリー担当、ひだまり担当からひとりは会議に参加し、他の職員に口頭で伝えることで、より内容が伝わるようになった。 学年便りや行事の詳細、連絡事項等は必要に応じて、事務室のホワイトボードに掲示し、誰でも見られるようになっている。 	A
	教職員の資質向上の為の研究・研修が充実していたか	<ul style="list-style-type: none"> 2学期末の土曜日を全職員出勤日とし、中村哲さんの生き様を記録したドキュメンタリーDVDを見て、今世界で戦争が起きている現状、平和について考える時間となった。 佐藤剛彦先生と担任やフリー教師が保育後および学期末に話をすることで、個と集団、これからのさふらんの保育等について考えることができた。 毎月1つわらべうたを担任を中心に共有する機会を作ったり、そよかぜの時間に子どもと一緒にやることで、進め方や歌の節等、クラスによる違いがなくなった。 外部研修およびキャリアアップ研修に多数参加している。それぞれ学んできたことを共有する機会を持つことがなかなかできていない。 	A
キリスト教 保育	子どもにキリスト教精神を伝える取り組みができていたか	<ul style="list-style-type: none"> 入園当初は各クラスでお祈りや聖句の紹介、また絵本を用いて身近な事柄を元に神様についての話を聞くことで、初めてキリスト教に触れる子ども達にとって、キリスト教や神様を知る時間となっている。 年中・年長組は月に1度、鶴川教会の瀬戸牧師より話をしてもらうことで、キリスト教についての理解を深める機会となっている。 瀬戸牧師を招いて、年2回教職員研修を行っている。今年度は、「祈ること」「各学年で話す聖話」をテーマに、話を聞くだけでなく、経験談や意見交換を行い、学びを深めることができた。また、キリスト教保育連盟に加入しており、連盟主催の研修にも参加し、キリスト教への理解を深めている。 感謝礼拝やクリスマス等のキリスト教ならではの行事を通して、感謝する気持ちや思いやりの気持ちを育てている。 年長組は3学期に、鶴川教会へ行き、教会の厳かな雰囲気の中で礼拝を行っている。 	A

特別支援	特別支援教育についての取り組みは適切であったか	<ul style="list-style-type: none"> ・4月から佐藤剛彦先生に月2～3回のペースで来ていただき、子どもの様子を見た上で助言、指導してもらうことで、子どもへの理解を深めた保育につながっている。また、さふらん会への参加、希望する保護者との面談を行うことで、保護者支援となっている。 ・ひとりひとりに適応したフォローができるように、教職員間で情報を共有し、個別対応ができるような体制を作っている。 ・療育機関より訪問指導を数回、行ってもらい、それぞれの情報を共有するなど連携している。 	A
乳児保育	環境が整備され、保育の内容や方法に配慮が見られたか	<ul style="list-style-type: none"> ・1歳児12名。2歳児は4名の新人児が加わって16名。子どもの人数や様子に応じて、フリーやパート保育士が入り、月齢やひとりひとりの成長段階、子どもの気持ちに寄り添って丁寧に関わる保育を行うことで、信頼関係を築き、安心して過ごさせている。 ・クラスの子どもの様子を理解し、成長に繋がるような保育内容や環境づくりができていたので、園生活を楽しむことができていた。2歳児クラスでは、3学期に入ったところで、さくらんぼ組との交流を増やしたり、お昼寝の時間を遅くするなど、幼稚園にスムーズに移行できるよう配慮している。 ・遊具や室内設備の点検・消毒をこまめに行っている。 	A
預かり保育	ひだまり保育の充実の為の取り組みが出来ていたか	<ul style="list-style-type: none"> ・7:30から8:30の間で早期保育“そよかせ”を行っている。日によって利用人数は10～15人程度で、フリーの教師が入り、ランチルームで保育している。にじの時間に移行する際には、わらべうたをし、讃美歌を歌い、お祈りをしている。3学年の子どもの交流にもつながっている。 ・年々、利用人数が多くなり、ひだまり保育の重要性も高くなっている。にじの時間とひだまり保育の連携がスムーズにいくように、ひだまり担当教諭もにじの時間の保育に入り、個々の子どもの様子を把握するようにしている。 ・利用する子ども達の様子によって、保育室を使うなど落ち着いて過ごせる環境作りや配慮ができていた。 ・3学年の担当が毎日、午後の過ごし方等を共有、相談することで縦関係のつながりもできている。 	A
子育て支援	保護者のニーズに応じた子育て支援ができていたか	<ul style="list-style-type: none"> ・未就園児クラスの開催、体験保育を行う。 ・10月より月3回程度ではあるが、在園兄弟妹や未就園児クラスの1、2歳児を対象に一時預かりを始めた。 ・地域の未就園親子を対象に園庭開放やイベント(リトミック・親子ヨガ・リリースづくり)を実施。参加者も多く、親子で幼稚園で過ごす良い機会となった。 	B
食育	子どもに対して適切な食育をしているか	<ul style="list-style-type: none"> ・季節の食材や行事にちなんだ献立を提供しているので、食事を通して、季節感を感じることができ、食べる楽しさや喜びに繋がっている。 ・食べようという気持ちを高め、食事が楽しみになるよう、食べきれぬ量にしたり、苦手な食材を減らす配慮や声掛けをするだけでなく、食べられた事に対して褒めることも大切にしている。 ・食事の配膳を自分で行う形に戻したことで食べられる量がわかるようになってきている。また、必要に応じて食事の姿勢、箸やスプーンの持ち方など指導している。 ・園内の花壇で野菜を育て、水やり等の世話をすることで生育を喜び、収穫や食べることの楽しさを味わうことができた。今年度は、きゅうり、ナス、トマト、とうもろこし、スイカ、小松菜を育てた。 ・ナーサリー組から年長組まで全クラスが上川さんの畑に行き、収穫体験を行い、土に触れる良い機会となった。 ・感謝礼拝やシエラレオネの話を通して、食に対する感謝の気持ちや残さず食べる気持ちを育てている。 	A

アレルギー対応は適切に出来ているか	<ul style="list-style-type: none"> ・なかよし給食(乳・小麦・卵を使用しない給食)、魚アレルギーに加え、バナナ、オレンジ、スイカ、パイナップルなど果物のアレルギーを持っている子が増えてきており、献立によって代替の物を提供している。その際は、誤食がないよう、食器の色を変えている。そのような細やかな配慮で、全園児が安全で安心な給食を食べることができている。 ・不足しがちなカルシウムやたんぱく質を他の食材で補えるよう工夫している。 ・プレイデーやクリスマスのケーキは、アレルギー児向けに、米粉などの代替食材を使って、キッチンで焼いたものを提供している。 	A
-------------------	---	---

IV. 総合評価

<p>[総合評価]A</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナも感染症5類に移行したので、これまで制限してきた活動等を見直し、子どもの現状を踏まえつつ、できることを増やすことで、ひとりひとりが様々な場面で力を発揮することができ、成長が感じられた。 ・1学期、3学期に参観を設け、運動会では保護者参加の制限を無くし、プレイデーを従来の形に戻した。また、礼拝やもちつき、各サークルの発表など、有志の保護者が参加できる機会を増やしたので、子ども達の園での様子や成長を見てもらう機会となった。 ・10月より一時預かりを始め、未就園児クラスでも入園前の保護者の子育てに関する悩みを聞くことも多く、そのような点で子育て支援に繋がっている。また、在園児の保護者支援については、担任だけでなく佐藤先生と希望者ではあるが面談を行い、保護者の思いを受け止め、助言いただいている。 ・職員ひとりひとりが勤務時間内に仕事を終わられるよう意識したことで、以前よりも効率よく仕事をすすめられるようになった。

V. 今後の課題

<ul style="list-style-type: none"> ・4月より満3歳児クラスに入園する前の期間に週3回通園する一時預かりが始まるので、スムーズにスタート、進められるように考えていく。 ・子ども達の成長をさらに促すことができるよう、園と家庭の連携に繋がるような園からの発信、保護者同士・保護者と担任が意見交換できる機会を増やしていく。 ・保育の質を高める研修の持ち方、外部の研修に参加した内容の共有を検討していく。
--

VI. 学校関係者評価委員会の意見(現父母委員4名、卒業生保護者1名、近隣の有識者1名)

<ul style="list-style-type: none"> ・日常の保育活動が、非常に子どもに寄り添い、充実した活動になっている。 無理に何かをやらせるわけでも、放置しすぎるわけでもなく、バランスの良い保育をしていると感じている。 ・「子どもだけ」ではなく、親子で園生活を楽しめるような環境作りが行われている。 ・クラス、学年を越えて、先生同士で子ども一人一人の情報共有ができているのが素晴らしい。 ・農園で直に土や野菜に触る機会や、それを料理して食べる機会があり、良い食育ができている。 ・コロナ禍が明け、5類になってすぐに園行事を再開(卒園生や祖父母等も見に来られる運動会やプレイデーを実施)してくれた。 ・誰でも見られる「さふらん紹介ブログ」をトップページに表示したら、もっと外部にも伝わるのではないかと。 行事だけではなく日常生活をもっと発信しても良いのでは。 ・「ホームページが重い」等、要望や意見を伝えたら改善してスピーディーに対応してくれる。
--